

参考ビデオクリップ 要点解説

肝臓手術 肝の脱転 下大静脈周囲剥離（短肝静脈処理を含む）肝静脈の処理

肝左葉脱転手技

- 1.開腹後、肝左葉背側に脾上極を覆うように、柄付きガーゼを敷く。
- 2.鎌状間膜から左右冠状間膜を切開し、左中肝静脈幹・右肝静脈を露出する（この際、右肝静脈背側まで剥離しておく）。
- 3.左冠状間膜～左三角間膜を切離する（左三角間膜切離には vessel sealer などを使用）。
- 4.アランチウス管を剥離し、結紮切離する。
- 5.左肝静脈根部付近で、尾状葉頭側の下大静脈左側壁を露出しておく。
- 6.（肝十二指腸間膜右側の視野）尾状葉尾側から左側頭側に向かって、下大静脈を露出する。
- 7.左下大静脈靱帯を結紮切離する（肝側結紮糸は牽引支持糸とする）。
- 8.尾状葉と下大静脈を剥離し、脱転する。
- 9.短肝静脈処理法
 - i) 径が細い場合（細い順に）
 - ・電気メスで凝固切離する。
 - ・vessel sealer で凝固切離する。
 - ・下大静脈側は結紮し、肝側は vessel sealer で凝固切離する。
 - ・肝側は 3-0 絹糸にて結紮、下大静脈側はケリー鉗子で把持しつつ切離し、下大静脈側を 5-0 モノフィラメント糸で z 縫合閉鎖する。
 - ii) 径が太い場合
 - ・肝側は 2-0 絹糸にて結紮、下大静脈側はスプーン型ドベイキー鉗子で把持しつつ切離し、下大静脈側は頭側尾側（径がそれほど太くなければ頭側のみ）に 5-0 モノフィラメント糸で牽引しつつ、頭側から連続縫合し、さらに尾側から頭側へも連続縫合を追加し、縫合閉鎖する。
- 10.尾状葉と下大静脈を左中肝静脈幹・右肝静脈間隙の尾側まで十分に剥離し、左中肝静脈幹をテーピングする。

肝右葉脱転手技

- 1.開腹後、鎌状間膜から左右冠状間膜を切開し、左中肝静脈幹・右肝静脈を露出する（この際、右肝静脈背側まで剥離しておく）。
- 2.右三角間膜～右冠状間膜を切離する。
- 3.右肝静脈背側を確認し、さらに尾側に向かって右副腎頭側まで下大静脈右側を露出する。
- 4.肝下部下大静脈を露出し、10 時付近を十分に剥離し、下大静脈右縁に沿って頭側にペアン鉗子を通す。
- 5.右副腎の肝附着部位は 2-0 絹糸にて結紮、右副腎側はドベイキー鉗子で把持しつつ切離し、4-0 モノフィラメント糸の連続縫合で、右副腎側を縫合止血する。
- 6.右下大静脈靱帯を肝側は 2-0 絹糸で結紮し、背側はドベイキー鉗子で把持しつつ切離し、5-0 モノフィ

ラメント糸の連続縫合で、縫合閉鎖する。

7.肝右葉（肝部下大静脈部）と下大静脈を剥離し、脱転する。

8.短肝静脈処理法

i) 径が細い場合（細い順に）

- ・電気メスで凝固切離する。
- ・vessel sealer で凝固切離する。
- ・下大静脈側は結紮し、肝側は vessel sealer で凝固切離する。
- ・肝側は 3-0 絹糸にて結紮、下大静脈側はケリー鉗子で把持しつつ切離し、下大静脈側を 5-0 モノフィラメント糸で z 縫合閉鎖する。

ii) 径が太い場合

- ・肝側は 2-0 絹糸にて結紮、下大静脈側はスプーン型ドベイキー鉗子で把持しつつ切離し、下大静脈側は頭側尾側（径がそれほど太くなければ頭側のみ）に 5-0 モノフィラメント糸で牽引しつつ、頭側から連続縫合し、さらに尾側から頭側へも連続縫合を追加し、縫合閉鎖する。

9.肝右葉と下大静脈を左中肝静脈幹・右肝静脈間隙の尾側まで十分に剥離し、右肝静脈をテーピングする。